

知恵袋（その6）

バスとタクシーの棲み分けエリアの転換といった大胆な発想の実践により、運営効率を向上
～きくちあいのりタクシー～（熊本県菊池市）

- ・まちの交通体系として、従来は、郊外部が補助金運行路線バス、街中がタクシーという棲み分けであったが、発想の転換により、街中を「巡回バス（べんりカー）」、郊外（中山間地域）を「あいのりタクシー」に切り替え、住民サービスを向上させたばかりでなく、運転効率を高めたことにより、市の財政負担を大幅に削減することに成功している。

タクシーを郊外で利用するという発想の転換

- ・ 菊池市は人口約 5.1 万人、人口密度 185 人 / km²、高齢化の進むまちであり、郊外は山間部が広がり、集落とバス停の距離が数百 m あるとともに高低差が大きく、高齢者にとっては路線バス利用が困難であった。
- ・ かつて菊池市では、市街地を巡る路線バスが放射状のみで環状線がなく不便であったこと、市街地から中山間・山間地域へ向けた郊外行きの路線バスは乗車人数が少なく、市は年間約 2,600 万円の補助金を支出してきたことなどの問題を抱えてきた。
- ・ このような課題を解決するために、平成 14 年度には市街地での 100 円巡回バス「べんりカー」の試験運行を行い、市民から高い評価を得た。その後、中山間・山間地域の交通サービスを検討する際に、べんりカーの運行形態を当該地域に広げることについて、バスでは運行経費が高つくことや、市街地のお客をバスに奪われたタクシー事業者との調整が難航した。
- ・ しかしながら、度重なる調整の結果、路線バスによる運行ではなく、新たな運行形態としてタクシーを活用することとなり、平成 15 年度には中山間・山間地域のべんりカーとして「あいのりタクシー」の試験運行を実施することとなった。

市の財政負担を削減

- ・ 試験運行の結果、利用実績や波及効果、市の財政負担等の面で大変優れていたことから、平成 16 年度より「べんりカー」と「あいのりタクシー」の本格的な運行を開始した。「べんりカー」は、年間の 1 便あたりの利用者数が、運行 2 年目の平成 17 年度から平成 21 年度まで 5 年連続して 11 名を超え、平成 21 年度は 12 名を突破した。「あいのりタクシー」は、年間の利用者数の総計が平成 19 年度に約 11,000 人、平成 20 年度に約 12,000 人、平成 21 年度に約 12,200 人と増加しており、平成 22 年秋には、運行開始からの累計利用者総数が 5 万人を突破する見込である。
- ・ 市の運行補助費は、路線バスが運行されていた時期と比べると、約 68%（年間約 1,800 万円）の削減になっている。

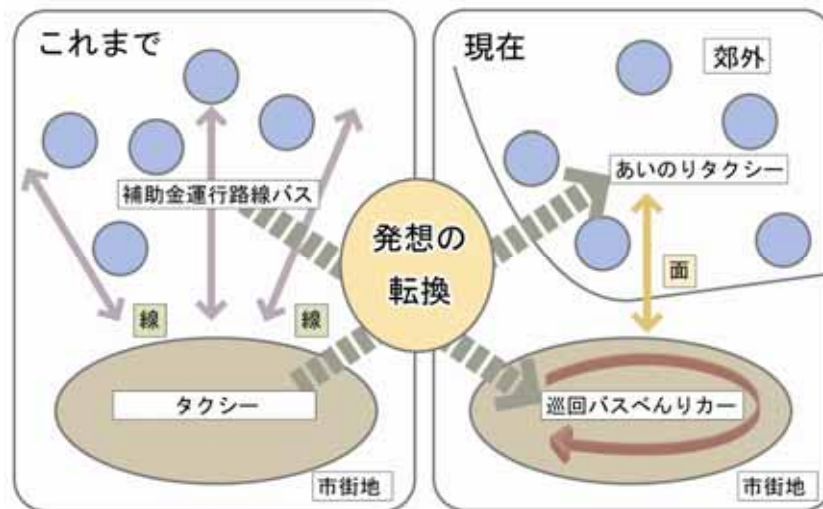


写真 3-7 きくちあいのりタクシー

（出典）菊池市 HP

新しい交通体系の誕生！

～バスとタクシーの棲み分けの転換～



注) 菊池市提供資料から作成

図 3-8 バスとタクシーの棲み分けの転換

* このことにも注目

タクシーを利用した新しい取組みを行政が示すことと、実現までの度重なる行政担当者と交通事業者との協議

行政トップのゆるぎない信念と担当者の努力が重要